

2019年3月期 決算説明資料

2019年6月21日



エムケー精工株式会社

証券コード: 5906



2019年3月期の決算概要

2019年3月期の総括

■ 業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善により緩やかな回復基調で推移いたしました。しかし、海外では米中貿易摩擦の問題や世界的な経済減速への懸念もあり、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが関連する業界におきましては、オート機器の分野では、引き続き設備投資が活発で堅調でありましたが、一部で政府支援事業がなくなるなど一服感が出てきております。情報機器及び生活機器の分野では、市場の伸び悩みや激しい価格競争により厳しい環境が続いております。一方、住設機器の分野では、オリンピック需要もあり業界全体に活況を呈してきております。

こうした状況のもと当社グループは、モノづくりとサービスを通じた顧客価値の追求を目指して、顧客視点に立った商品開発とサービス品質の向上に取り組んでまいりました。また、当社グループの既存事業の深耕を図る一方で、M&A等を通じて隣接分野への事業拡大を図ってまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は233億9千6百万円(前期比14.2%増)、経常利益は11億7千万円(前期比35.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は7億6千3百万円(前期比59.9%増)となりました。

2019年3月期の業績

<連結業績>

単位：百万円

	2019年3月期	2018年3月期	対前期比
売上高	23,396	20,480	2,915
営業利益	1,079	848	230
経常利益	1,170	863	306
親会社株主に帰属する 当期純利益	763	477	285

<単体業績>

単位：百万円

	2019年3月期	2018年3月期	対前期比
売上高	18,603	17,860	742
営業利益	734	679	55
経常利益	910	756	154
当期純利益	583	467	115

2019年3月期 連結貸借対照表

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	13,395,425	10,929,903	2,465,522
現金及び預金	2,997,652	1,714,974	1,282,677
受取手形及び売掛金	5,052,107	4,198,938	853,168
たな卸資産	4,931,217	4,594,942	336,275
その他の流動資産	414,449	421,048	△6,599
固定資産	11,584,508	9,927,020	1,657,487
有形固定資産	6,963,814	6,369,623	594,190
無形固定資産	2,073,053	976,941	1,096,111
投資その他の資産	2,547,639	2,580,455	△32,815
資産合計	24,979,933	20,856,924	4,123,009

2019年3月期 連結貸借対照表

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
(負債の部)			
流動負債	9,139,457	7,899,374	1,240,083
支払手形及び買掛金	1,007,417	926,201	81,215
短期借入金	2,905,000	1,680,000	1,225,000
1年内返済予定の長期借入金	629,086	949,043	△319,957
その他の流動負債	4,597,954	4,344,129	253,824
固定負債	4,542,866	2,187,294	2,355,572
長期借入金	3,435,260	1,200,988	2,234,272
その他の固定負債	1,107,606	986,306	121,300
負債合計	13,682,323	10,086,668	3,595,655

2019年3月期 連結貸借対照表

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	10,837,106	10,189,518	647,587
資本金	3,373,552	3,373,552	—
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	—
利益剰余金	5,022,867	4,375,279	647,587
自己株式	△510,457	△510,457	—
その他の包括利益累計額	460,503	580,737	△120,233
その他有価証券評価差額金	317,216	413,676	△96,459
繰延ヘッジ損益	4,378	△13,229	17,608
為替換算調整勘定	20,380	52,788	△32,408
退職給付に係る調整累計額	118,528	127,502	△8,973
純資産合計	11,297,610	10,770,256	527,354
負債純資産合計	24,979,933	20,856,924	4,123,009

2019年3月期 連結損益計算書



単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
売上高	23,396,500	20,480,896	2,915,604
売上原価	15,775,255	13,622,244	2,153,011
売上総利益	7,621,245	6,858,652	762,593
販売費及び一般管理費	6,542,143	6,010,411	531,732
営業利益	1,079,101	848,241	230,860
営業外収益	192,043	112,798	79,245
営業外費用	100,974	97,834	3,140
経常利益	1,170,170	863,204	306,965
特別利益	201,673	56	201,616
特別損失	37,847	3,956	33,890
税金等調整前当期純利益	1,333,996	859,304	474,691
法人税等及び法人税等調整額	570,399	381,611	188,787
親会社株主に帰属する当期純利益	763,596	477,692	285,904

2019年3月期 連結株主資本等変動計算書

＜2018年3月21日から2019年3月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当連結会計年度期首残高	3,373,552	2,951,143	4,375,279	△510,457	10,189,518
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△116,009		△116,009
親会社株主に帰属する 当期純利益			763,596		763,596
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)					
当連結会計年度変動額合計	-	-	647,587	-	647,587
当連結会計年度末残高	3,373,552	2,951,143	5,022,867	△510,457	10,837,106

2019年3月期 連結株主資本等変動計算書

単位:千円

	その他の包括利益累計額					純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額 合計	
当連結会計年度期首残高	413,676	△13,229	52,788	127,502	580,737	10,770,256
当連結会計年度変動額						
剰余金の配当						△116,009
親会社株主に帰属する 当期純利益						763,596
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)	△96,459	17,608	△32,408	△8,973	△120,233	△120,233
当連結会計年度変動額合計	△96,459	17,608	△32,408	△8,973	△120,233	527,354
当連結会計年度末残高	317,216	4,378	20,380	118,528	460,503	11,297,610

2019年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,115,577	498,335	617,242
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,380,574	△417,703	△1,962,870
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,287,027	△316,305	2,603,332
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,012	△5,143	3,130
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	1,020,018	△240,816	1,260,835
現金及び現金同等物の期首残高	354,399	595,216	△240,816
現金及び現金同等物の期末残高	1,374,418	354,399	1,020,018

2019年3月期 貸借対照表

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	9,594,224	9,068,818	525,405
現金及び預金	1,159,974	1,122,918	37,056
受取手形及び売掛金	3,913,554	3,347,369	566,185
たな卸資産	3,771,907	3,583,760	188,147
その他の流動資産	748,786	1,014,771	△265,984
固定資産	12,845,418	10,451,361	2,394,056
有形固定資産	4,848,931	4,992,652	△143,721
無形固定資産	493,166	353,363	139,803
投資その他の資産	7,503,320	5,105,345	2,397,975
資産合計	22,439,642	19,520,179	2,919,462

2019年3月期 貸借対照表

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
(負債の部)			
流動負債	7,759,647	7,444,357	315,289
支払手形及び買掛金	1,065,014	846,309	218,705
短期借入金	2,230,000	1,630,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	606,070	933,059	△326,989
その他の流動負債	3,858,562	4,034,989	△176,427
固定負債	4,195,769	1,983,814	2,211,954
長期借入金	3,385,430	1,153,620	2,231,810
その他の固定負債	810,339	830,194	△19,855
負債合計	11,955,417	9,428,172	2,527,244

2019年3月期 貸借対照表

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	10,155,333	9,687,853	467,480
資本金	3,373,552	3,373,552	—
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	—
利益剰余金	4,341,094	3,873,614	467,480
自己株式	△510,457	△510,457	—
評価・換算差額等	328,891	404,154	△75,262
その他有価証券評価差額金	324,513	417,384	△92,870
繰延ヘッジ損益	4,378	△13,229	17,608
純資産合計	10,484,224	10,092,007	392,217
負債純資産合計	22,439,642	19,520,179	2,919,462

2019年3月期 損益計算書

単位：千円

	2019年3月期	2018年3月期	増減額
売上高	18,603,506	17,860,969	742,536
売上原価	12,451,568	11,858,537	593,031
売上総利益	6,151,938	6,002,432	149,505
販売費及び一般管理費	5,417,771	5,323,326	94,445
営業利益	734,166	679,106	55,060
営業外収益	260,674	163,179	97,495
営業外費用	83,933	85,454	△1,521
経常利益	910,907	756,831	154,076
特別利益	14,699	56	14,643
特別損失	36,830	3,956	32,874
税引前当期純利益	888,777	752,931	135,845
法人税等及び法人税等調整額	305,287	285,096	20,191
当期純利益	583,489	467,834	115,654

2019年3月期 株主資本等変動計算書

＜2018年3月21日から2019年3月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,373,552	2,951,143	3,873,614	△510,457	9,687,853
当期変動額					
剰余金の配当			△116,009		△116,009
当期純利益			583,489		583,489
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	467,480	—	467,480
当期末残高	3,373,552	2,951,143	4,341,094	△510,457	10,155,333

2019年3月期 株主資本等変動計算書

単位：千円

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	417,384	△13,229	404,154	10,092,007
当期変動額				
剰余金の配当				△116,009
当期純利益				583,489
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△92,870	17,608	△75,262	△75,262
当期変動額合計	△92,870	17,608	△75,262	392,217
当期末残高	324,513	4,378	328,891	10,484,224

セグメント別分析

■ オート機器事業

主力の門型洗車機は、カーディーラーの設備投資意欲に支えられ堅調に推移いたしました。SS(サービス・ステーション)では政府支援事業の対象外となった影響もあり伸び悩みました。オイル機器については、政府補助金制度もあり灯油配送ローリーが好調に推移し、レンタル会社向けの建機用洗浄機やエアコンガスクリーニング機が伸長しました。また、石油元売統合によるSSのリニューアル需要により、サービス部門においても売上増となりました。この結果、オート機器事業の売上高は、134億8千1百万円(前期比3.1%増)となりました。



ドライブスルー門型洗車機

■ 情報機器事業

情報機器としては主にLED表示装置を製造・販売しています。一般店舗向け小型表示機は、需要が振るわず前期実績を若干下回る結果となり、また大型フルカラー表示機は案件数が減少し低調でした。一方、SS向け価格看板及び道路工事用表示板は、顧客ニーズにマッチし好調に推移いたしました。また、官需分野においては、大規模物件の受注があり売上増に貢献しました。この結果、情報機器事業の売上高は、18億7千7百万円(前期比17.9%増)となりました。



一般店舗向け小型表示機とフルカラー表示機

セグメント別分析

■ 生活機器事業

農家向け商材は、主力製品の低温貯蔵庫及び保冷米びつが伸び悩み、前期の売上げを下回りました。一方、一般家庭向け商材は、電子レンジ置き台が需要が振るわず低調に推移したものの、新発売の小型保冷米びつ及び黒にんにくメーカーが好調で、売上げに貢献しました。また、ワイヤレステレビスピーカーなどの音響関連商品が売上げを伸ばし、新たに事業拡大を図った攪拌機や食品加工機のビジネスも堅調に推移いたしました。この結果、生活機器事業の売上高は、55億5千万円(前期比48.3%増)となりました。

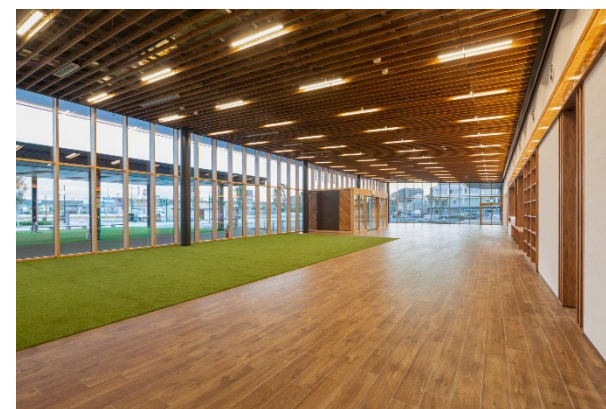
■ 住設機器事業

住設機器としては、主に木・アルミ複合断熱建具、消音装置、鋼製防火扉等を製造・販売しています。主力の木・アルミ複合断熱建具については、地球温暖化やCO₂削減が叫ばれる時代を背景に、木材利用を活発化する動きがあり好調に受注を伸ばしました。また、新たに事業拡大を図った鋼製防火扉のビジネスも堅調に推移いたしました。この結果、住設機器事業の売上高は、23億1千9百万円(前期比22.4%増)となりました。



黒にんにくメーカー

小型保冷米びつ



木・アルミ複合断熱建具

「アルタスウッドスクリーン」の施工例

セグメント別分析

■ その他の事業

保険代理業、不動産管理・賃貸業及び長野リンデンプラザホテルの運営に係るホテル業が主体となります。ホテル業については、長野市内での競合が激化し厳しい状況が続いております。この結果、その他の事業の売上高は1億6千8百万円(前期比4.1%減)となりました。



長野リンデンプラザホテル

2020年3月期 業績・配当予想

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2020年3月期の業績予想

<連結業績>

単位:百万円

	2020年3月期(予想)	2019年3月期(実績)	対前期比
売上高	23,500	23,396	0.4%
営業利益	750	1,079	△30.5%
経常利益	700	1,170	△40.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	350	763	△54.2%

2020年3月期の配当予想

当社グループは、株主各位への利益還元を重要な政策と位置づけ、今後の事業展開を念頭に財務体質の強化のための内部留保とのバランスを考慮した利益配分を基本方針としております。

2020年3月期における1株当たりの年間配当予想は以下のとおりです。

<1株当たり年間配当金>

	1株当たり期末配当金
2020年3月期(予想)	8円00銭
2019年3月期(実績)	8円00銭

参考資料

当社の経営方針

■ 今後の経営方針

当社は、昨年、創立70周年を迎えることができました。これを機に、当社グループは、第二創業としての強い攻めの気持ちをもって、中期経営計画策定、M&A、生産設備やIT基盤への投資、労働環境の改善など、成長ステージに向けての施策を講じてきました。そして、この施策の一環として、当社グループの理念たるビジョン、ミッション等を次のように定め共有いたしました。

- ・ ビジョン 「今までにない、いどり豊かなシーンを広げる。」
- ・ ミッション 「これが欲しかった！をアイデアで次々に実現する。」
- ・ スローガン 「その手があった！の一手先。」

この理念のもと、これまでのモノづくりの実績を踏まえた上で、持てるネットワークと資源の全体最適を図りながら、新たな成長フェーズへと実績を積み上げてまいります。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、企業収益及び雇用環境の改善が続く中、引き続き緩やかな景気回復基調で推移することが期待されるものの、予定されている消費税増税による国内消費への影響や世界経済の不確実性など、先行き不透明な状況にあり、当社グループ関連業界におきましても厳しい経営環境が続くものと予想されます。かかる状況におきまして、当社グループは、更なる成長ステージへ向けて、以下の課題に取り組んでまいります。

① 顧客価値の追求

モノづくりとサービスを通じた顧客価値を追求し、当社グループのスローガン「その手があつた！の一手先。」の姿を具現化する。

② “美・食・住”

社会的な課題を“美・食・住”の視点から探求し、その解決に向け、当社グループをあげて新しい事業、商品及びサービスをデザインする。

③ ブランドの強化

社外向けコーポレートブランディング、グループ内のインナーブランディング及び採用ブランディングを通じて、魅力あるモノづくり集団としての当社グループの一層の認知を図る。

④ 経営インフラの強化

当社グループを支える人材、財務、IT、生産ラインといった経営インフラを、グループ全体の最適化を踏まえながら整備し強化する。

研究開発活動

市場ニーズが多様化するなか、「良いモノをつくれれば売れる」といった単純な時代が終焉を迎えて久しいときが経っております。「お客様が本当に困っていることはなにか」、「困っていても現状に甘んじていることはなにか」、さらに言えば「お客様自身でさえ気がついていないような『こんなものがほしかった！』といったものはないのか」、研究開発においてもそういったマーケティング思考が極めて重要になっております。

当期は創業70周年の節目の年であり、これを機に「その手があった！の一手先。」といった新コーポレートスローガンを掲げ、「お客様に寄り添うメーカー」から「お客様にとって、なくてはならないメーカー」を目指して、あらゆる研究開発活動を進めてまいります。

研究開発活動

■ オート機器事業

門型洗車機では、3ウェイドライブスルー機の「アプリス」及び「フィーア」をベースとし、感謝と進化をテーマとした70周年記念モデルを開発しました。ドライブスルー機用の新オプションとしては、高輝度LED照明を搭載しショー効果を高めた独立型のジェット&泡洗浄システム「ジェットフォーマー」を開発しました。また、ディーラー、整備工場、フルサービスSS向けのスタンダード機「アンプル」及び「サフィール」の上位モデルとして、新開発の274軸高精細車形ユニットを搭載した「フォーゼ」及び「プレイズ」を開発しました。

スプレー洗車機では、手洗い用泡洗車機の「スーパームース」をモデルチェンジし、従来の200V用に加え100V用を開発しました。

自動車整備機器では、エアコンガスクリーニング充填機の新モデルとして、従来冷媒ガスHFC-134aと低環境負荷(温室効果抑制)新冷媒ガスHF0-1234yfの2ガス兼用型で、ガスが混ざらない安全作業を実現する2系統完全分離型機を開発しました。

その他には、消防法に準拠したガソリンスタンド向けのスポットクーラーのモデルチェンジをしております。

■ 情報機器事業

民需向け表示機では、SS向けガソリン価格看板にフルカラーLEDディスプレイを搭載し、訴求力の向上を図っております。また、フルカラーLED定番機「FQシリーズ」を連結し、ガソリン価格表示機能を搭載した中型機種を開発しました。両機種とも入力装置にタブレットを採用し、使い易いシステムを実現しております。

官需向けでは、高速道路SAシステム、空港向け表示システム及び工事・道路維持管理向け表示システムを開発しました。

研究開発活動

■ 生活機器事業

農家向け商材では、果樹野菜農家向けの大型低温貯蔵庫と高級感あるパールホワイト色を採用した70周年記念モデルを開発しました。また、農家以外での用途拡大を図るため、大型プレハブ冷蔵庫とともに黒にんにくメーカーを開発しました。特に黒にんにくメーカーはこれまで市場にはなく、当社の黒にんにくメーカーを使えば、高級食品の黒にんにくを手軽に家庭で作れるということもあって、多くのお問い合わせをいただき販売も好調に推移しております。

家電商材では、前期発売した小型精米機に続き、小型保冷米びつを開発しました。キッチンに合うスリムなデザインを前面に出し、家電量販店、テレビ通販への納入実績ができました。また、調理家電の品揃え強化のために電気圧力鍋、無煙ロースターも開発しております。

収納商材では、オープンラックのモデルチェンジと機種追加を行い、流行の食器棚などと奥行を揃えたり、収納量アップあるいはスリム化対応したりすることで、シリーズの充実化を図っております。また、大手ホームファニッシング向けのダストボックスを組み合わせたパールワゴンの販売が好調なため、バリエーションの充実を図りました。レンジ台関連では、最近の運送業者の人手不足や再配達増加の事情から、大きな荷物の取り扱いを敬遠する事例が増加し、荷物の3辺合計寸法を抑えた梱包が必須となっていることから、組立タイプのレンジ台を開発しました。

音響関連商材では、テレビ用コードレススピーカーとして大手企業向けOEM商品を開発し、会話用集音器として耳かけ型の「イヤフォースパルフェ」とイヤホン型の「イヤフォースポケット」を開発しました。

業務用商材では、工場案内、内部研修、施設案内などで利用されている「音声クリアガイドシステム」の関連商品として、最大4人の話し手の声を同時に送受信できる「マルチレピーターセット」を開発しました。

研究開発活動

■ 住設機器事業

住設機器事業では、木・アルミ複合断熱スクリーンの木部を集成材からスチールのビルドHのような意匠で細くて軽い木質構造材をアルミと組み合わせた「BEAM53(ビーム53)」を開発しました。

消音商品のノイズバスターシリーズにグラスウールなどの吸音材を使用せず、エコでシンプルなデザインで音波干渉させることにより消音性能を向上させた「NBAP(ノイズバスターアクティヴィティパネル)」を開発しました。

これらの商品はいずれも民間物件の拡販向けを目的としており、既に営業活動をスタートしております。

また、従来のアルタスウッドスクリーンの断熱性能を向上させ、断熱のニューストのブランド強化を図るべく、高断熱スクリーンの開発に着手しました。

新製品情報

当社は、2019年度より事業セグメントを変更いたしました。従来の「オート機器事業」と「情報機器事業」については、統合することによりコスト競争力、商品開発力及び提案力の強化を図り、モビリティ社会を支える事業とするため「モビリティ&サービス事業」に変更いたしました。また、「生活機器事業」については、調理家電から食品工場向けの食品加工機械まで事業拡張を図るため「ライフ&サポート事業」に変更いたしました。

■ モビリティ&サービス事業

【ドライブスルー洗車機 アプリス70周年記念モデル】

高度な安全性と洗浄力の両立を図ったアプリスに、最新かつ最高峰の技術を標準搭載した、「70周年記念モデル」を発売しました。このモデルは、センシング・洗浄・乾燥を組み合わせる最新技術を搭載しています。まさに節目を飾るに相応しいアニバーサリー洗車機になっています。



新製品情報

【独立型泡洗浄&LED照明「ジェットフォーマー」】

門型洗車機の上部に取り付けられる独立型ジェット&泡洗浄システムです。前後左右に可動するノズルから高圧水と泡を噴霧します。さらに前面には色彩鮮やかな高輝度LED照明パネルを搭載し、洗車満足度を高める迫力のあるショー効果を発揮します。

【価格看板 SS-X123・SS-X713】

従来の内照式とLED式のハイブリッド型価格看板を発売しました。上部のディスプレイ部と価格表示部にはLEDを搭載し、油種部には差し込み式の内照式プレートを搭載しました。上部のLEDディスプレイに表示されている内容と表示価格が連動して切り替わる機能を追加したことにより、複数の価格を切り替えて表示することが可能です。また上部に油種表示、油種部に精算種別を表示するなどフレキシブルな使い方が可能になり今までであるようでなかった、市場ニーズに応えた商品です。



新製品情報

■ ライフ&サポート事業

【黒にんにくメーカー】

家庭で手軽に黒にんにくが作れる「黒にんにくメーカー」を発売しました。付属の専用トレイににんにくをセットして開始キーを押せば、12日後にはほどよい弾力としっとりした甘酸っぱいドライフルーツのような食感のおいしい黒にんにくが味わえます。Mサイズのにんにくを一度に最大18玉までセットでき、フタ裏と本体側面のダブルヒーターで庫内を最適な温度で効率よく温めることで、ムラのない高品質な黒にんにくに仕上げることができる商品です。



株主優待制度のご案内

■ 株主優待制度の内容

当社のグループ会社で運営する長野リンデンプラザホテル(長野市南千歳町)の宿泊優待券を贈呈いたします。

■ 発行基準

宿泊優待券は、毎年3月20日現在、所有株式数1,000株以上の株主様に対し、次のとおり発行いたします。

ご所有株数	ご優待券
1,000株 ~ 1,999株	2枚
2,000株 ~ 3,999株	3枚
4,000株 ~ 9,999株	4枚
10,000株以上	6枚

■ 発行日

定時株主総会后、決議通知に同封いたします。

■ 有効期限

発行年の翌年6月30日



長野リンデンプラザホテル



本資料に関するお問い合わせ

工ムケー精工株式会社

管理本部

TEL : 026-272-0601

E-mail : soumu@mkseiko.co.jp